

# 第41回大阪大学大学院基礎工学研究科産学交流会

産学連携センター設立10周年記念

## AI時代の価値創造を支える科学と技術 ー人間拡張・智能化システム・機能材料の最前線ー

AIは人間を超えるのか、それとも拡張するのか？  
その答えを生み出す新たな産業と価値創造の可能性を探る

2026年11月11日(水)

13:30～17:40(開場13:00)

大阪商工会議所502会議室

(大阪市中央区本町橋2-8)

参加無料  
オンライン  
同時開催

日時  
会場

開会の辞 大阪大学 大学院基礎工学研究科附属産学連携センター長 教授 松林伸幸氏  
挨拶 大阪大学 大学院基礎工学研究科長 教授 関山 明氏  
大阪商工会議所 産業部 部長 西田昌弘氏

### プログラム

- 大阪大学 教授 和田成生氏  
基礎工学研究科附属産学連携センターの10年と今後の展望
- 株式会社サイバーエージェント AI事業本部 統括 堂前紀郎氏  
サイバーエージェント流AIに意思決定を任せる経営  
～AI時代の価値創造と人間の役割～
- 株式会社ダイセル 研究開発本部 グループリーダー 岩山将士氏  
材料が切り拓く未来社会  
～AI時代の研究開発変革と価値創造～
- 熊本大学 特任教授 阪本 聡氏  
産学連携活動の新しい流れ
- 大阪大学 教授 原田研介氏  
ロボットによるマニピュレーションにおけるPhysical AI
- 大阪大学 教授 境 慎司氏  
3Dバイオプリンタ・インク・造形プロセスの開発と食品分野への展開

閉会の辞 生産技術振興協会 理事長 堀池 寛氏

終了後 17:45より懇親会 (大阪商工会議所 6階 末広の間)

申込

右側のQRコードまたは  
下記URLから申込ください

<https://www.osaka.cci.or.jp/rd/D22260730022/>



お問い合わせ

大阪大学大学院基礎工学研究科  
附属産学連携センター

[sangaku-jimu.es@office.osaka-u.ac.jp](mailto:sangaku-jimu.es@office.osaka-u.ac.jp)

主催 大阪大学大学院基礎工学研究科 大阪商工会議所 生産技術振興協会

## 第41回 大阪大学 大学院基礎工学研究科 産学交流会 講演概要

### 「基礎工学研究科附属産学連携センターの10年と今後の展望」(13:45～14:20)

大阪大学大学院基礎工学研究科 教授 和田 成生

科学と技術の融合を理念に掲げる基礎工学研究科では、2017年に産学連携室を産学連携センターへと改組し、産学連携活動の強化を進めてきました。共同研究講座や協働研究所の設置を通じて、従来の課題解決型の産学連携にとどまらず、異分野融合から生まれる新たな研究課題の発掘や、産業界を支える基盤工学と先端研究を結び付ける人材の育成を目指した産学連携を展開してきました。本講演では、融合研究を推進する基礎工学研究科の特徴を活かしたこれまでの産学連携活動を振り返るとともに、今後の産学連携の在り方や、大学と企業が協働して取り組むべき課題について考えます。

### 「サイバーエージェント流AIに意思決定を任せる経営～AI時代の価値創造と人間の役割～」(14:20～14:55)

株式会社サイバーエージェント AI事業本部 統括 堂前 紀郎

生成AIが仮説の生成や実験計画までも担う「AI for Science」の潮流が、科学の営みを変えつつあります。同じ変化は経営にも起きています。サイバーエージェントでは広告・メディア事業でAI活用を進めるとともに、医療・薬局DX子会社MG-DXの経営では、情報収集・課題化・選択肢の提示をAIに委ね、人間が「判断と責任」に集中する経営の再設計を、仮説検証の繰り返しとして実践してきました。本講演では、会社を一つの実験場とするこの試みをもとに、今後10年の価値創造と人間の役割の変化を展望し、AIには代替できない基礎研究への期待と産学連携の新しい可能性を、経営の現場から提起したい。

### 「材料が切り拓く未来～AI時代の研究開発変革と価値創造～」(14:55～15:30)

株式会社ダイセル 研究開発本部 生技研横断DXセンター グループリーダー 岩山 将士

AI技術の急速な進展により、研究開発やものづくりのあり方は大きな変革期を迎えています。しかし、環境・エネルギー・健康医療などの社会課題を解決するためには、それらを支える機能材料の進化が不可欠です。本講演では、ダイセルの事業および材料技術の概要を紹介するとともに、シミュレーション、マテリアルズインフォマティクス、AI、量子技術などを活用した研究開発DXの取り組みについて紹介します。さらに、研究開発データプラットフォームやバーチャルラボ構想などを通じて、データと知識が循環する次世代研究開発基盤の姿を展望するとともに、AI時代における産学共創の可能性について議論します。

### 「産学連携活動の新しい流れ」(15:45～16:20)

熊本大学 産業ナノマテリアル研究所 特任教授 阪本 聡

私は、2018年6月から基礎工学研究科が株式会社ダイセルと開設した共同研究講座「衝撃科学共同研究講座(現在のダイセル・エンジニアリング・サイエンス共同研究講座)」に招へい教員(教授)として、“基礎工学研究科としての独自性”を生かした産学連携及び講座運営を実践しました。また、この経験を活かし2022年10月から、熊本大学がダイセルと開設した「ワнтаイムエナジー共同研究講座」に参画し、現在も熊本大学の特任教授として、講座の研究統括、産学連携を担っています。今回の講演では、大阪大学(2018年～)と熊本大学(2022年～)での計8年間で経験、実践した「産学連携活動の新しい流れ」についてお話しします。

### 「ロボットによるマニピュレーションにおけるPhysical AI」(16:20～16:55)

大阪大学大学院基礎工学研究科 教授 原田 研介

近年Physical AIのブームが世界的に起こっています。その中心はロボットによる物体操作(マニピュレーション)の分野です。本講演では研究室における成果を中心に、近年の動向を解説します。さらに、これらの技術の産業応用についても展望します。

### 「3Dバイオプリンタ・インク・造形プロセスの開発と食品分野への展開」(16:55～17:30)

大阪大学大学院基礎工学研究科 教授 境 慎司

3Dバイオプリントは、生きた細胞と材料を用いて、生体組織を模した三次元構造を作製する技術です。構造物中で細胞の生存、増殖、分化を促すには、材料の性質と造形構造を適切に設計する必要があります。本講演では、温和な条件で架橋するハイドロゲルインク、造形を安定化する支持材料、細胞への負荷を抑えるプリンタおよび造形プロセスについて、企業との共同開発を含む取り組みを紹介します。さらに、これらの技術を基盤とした食品材料の三次元造形や、生物の機能を活用した食品分野への展開について述べます。

- 申込期限: 10月28日(水)まで。会場の定員数80名を超えたらオンライン参加となります。
- 参加お申込み受理後、11月6日(金)ごろにE-mail等で「参加票」または「オンライン参加用URL」をお送りいたします。
- 会場参加が決定になられた皆様は、当日、「参加票」をご提出ください。また、名札用にお名刺もご準備ください。
- 懇親会の参加費2,000円は、当日、会場受付にて申し受けます。
- 本セミナーは大阪府の小規模事業経営支援事業費補助金を使用しています。